

協働のまちづくり推進計画の取組についての総括意見 ～多文化共生社会へ～

令和6年6月24日
富里市協働のまちづくり推進委員会

令和5年度の推進計画の進捗状況を踏まえ、今後の取組に関する富里市協働のまちづくり推進委員会としての総括的な意見等については、以下のとおりです。

【総括】

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、徐々に日常の生活を取り戻しながら、市内各地においても様々なイベントや地域活動が再開され、以前の賑わいが戻ってきたように感じます。その中でも、本市最大のイベントであります「富里スイカロードレース大会」が4年ぶりに開催できたことは、コロナ禍後の新たな時代に向け、希望を抱かせる出来事であったと思います。

また、同じく5類移行後の大きな変化の一つとして、令和5年における外国人の入国者数は、約2,583万人で、前年に比べ約2,163万人（約515.3%）※注1）増加しました。成田空港に隣接している本市においては、令和4年12月末時点で、2,963人の外国人が暮らしており、人口に占める外国人比率は6.02%※注2）と県内で1番高い割合です。さらに、令和6年1月末時点で、外国人市民3,541人、外国人比率は7.13%※注3）まで上昇しています。外国人市民は今後も増加が見込まれることに加え、総人口は減少が見込まれることから、今日、外国人との共生の重要性がますます高まっています。

このような社会の動きの中で、令和5年度に「互いの文化・習慣等を理解・尊重し合い全ての市民が幸せに暮らせる富里」を基本理念とした「富里市多文化共生推進プラン」を策定できたことは、大変時宜にかなった成果であり、今後の富里のまちづくりの礎の一つとなるものと考えます。今後のまちづくりを推進する上では、今ある富里の魅力を最大限生かしつつ、異なる文化と共生していくことが大切です。そのためには、私たち市民の参加を起点とし、市民活動団体、地縁による団体、事業者、市との協働により、さまざまな施策を打ち出していく必要があります。

「第2次富里市協働のまちづくり推進計画」には推進項目が27ありますが、まずは市民に愛着を持っていただき、富里に興味を持った上で、協働事業に参加するなど、個々の市民のステップに合わせた取組をすることも大切な視点だと考えます。

市職員の皆様におかれましては、引き続き「市民起点」に立ち、市民が富里市に誇りを持てるようオール富里で事業に取り組んでいただくようお願いいたします。

※注1) 訪日外国人の数は、出入国在留管理庁 HP から抜粋

※注2) 外国人比率の割合は千葉県 HP から抜粋

※注3) 富里市多文化共生推進プランから抜粋

【第1節 活動の醸成支援】

(1) 活動支援及び中間支援機能の強化に関して

とみさと市民活動サポートセンターについて、平成25年3月に富里市市民活動サポートセンター検討委員会から提出された「富里市市民活動サポートセンターの機能等に関する提言書」にある、7つの支援力（①相談対応力、②調査・情報収集力、③情報の編集・発信力、④コーディネート・ネットワーキング力、⑤資源の掘り起こし・提供力、⑥人材育成力、⑦政策提言力）を引き続き強化していく必要があります。7つの支援力は、総合的に強化することが一番望ましいですが、年度ごとに重点を置いてステップアップする方法も検討の上、年次計画の方針を明確にして、適切な研修を実施していただければと思います。

とみさと市民活動サポートセンターが支援する人・団体は、社会福祉協議会内にある富里市ボランティアセンターが支援する人・団体と重複する部分がありますので、今後も双方で連携を取り合うことが大切です。

また、とみさと市民活動サポートセンターの施設について、入りやすい雰囲気づくりや行ってみたいと思わせる仕掛け・工夫をし、市民や市民活動団体をつなぎ、交流のきっかけになるような場所づくりに努めていただければと思います。

(2) 活動資金の確保に関して

「市民活動支援補助金」については、市民活動団体がより活用しやすい制度となるよう引き続き検討してください。

「ちい寄附」については、賛同店も増えており、さまざまな工夫をしながら継続していると思いますが、寄附金額が伸びていません。寄附メニューや賛同店舗の一覧を作成し、「とみさと市民活動フェスタ」等のイベントでの配布、商工会との連携、「広報とみさと」やSNS等でのPRなどを通じて、認知度の向上を図っていただければと思います。

(3) 担い手の発掘・育成の充実に関して

「市民活動感謝状」の贈呈について、受賞された方から「公の場で市長から直々に表彰されることは、大変貴重であり光栄だ」と伺っていますが、多くの市民にとっては、どのような人が感謝状の対象になるかイメージが湧いていないように思います。過去にどのような方や団体が受賞されたのか、事例を挙げたり、さまざまな場所・媒体で周知したりすることにより、制度が活性化するものと考えます。

「とみさと協働塾」について、多様な企画が数多く実施されていることは、積極的に評価できるもので、引き続き実施することが望まれます。企画の一つである「みんなでボランティア体験」は、富里市ボランティアセンターと共同開催しており、年々参加団体も増えてきて一定の成果を上げていていると感じます。体験した小学生にとっても夏休みの自由研究の一助になっているなど素晴らしい事業だと思います。人気のプログラムはすぐに埋まってしまうと聞いているため、冬休みや春休みの開催も検討してください。

一方で、外部講師を招いての「まちづくりサポーター養成講座」に関して、専門的な知識を習得する上で有益ですが、参加者が少ない傾向にあります。より多くの方が参加する講座となるよう、広報のあり方の検討や受講者のニーズの把握が必要と考えます。人材の掘り起こしの方法として「プロボノ」（社会人が持つスキルや経験を市民活動やまちづくりに生かす仕組み）があります。地元の企業と連携して団体の基盤強化や参加者の増加へつなげていただきたいと思います。

「ボランティア手帳」について、小学生・中学生のボランティア参加の促進にとって、有益な手段となっていると考えます。他方で、一般のボランティア参加の促進に向けた活用方法については、改めて趣旨を確認するとともに、周知方法についても見直しが必要です。子ども用と大人用の手帳がありますが、まずは、どちらかに絞って施策を検討することも考えられます。

「若者プロジェクトチーム事業」について、参加者の減少が気になるころではありますが、目指すべき方向性・内容ともに重要で、今後も継続して取り組んでいただきたいです。若者プロジェクトチームのメンバーには、活動の面白さなどが伝わるよう、「やってよかった事例」「これからやりたいこと」などをまとめていただき、同世代の目に留まる場所で注目・共感される内容で周知いただければと思います。

多文化共生による市民活動の促進は、富里市のまちづくりに外せない視点であり、国籍や文化、宗教等を理解し、市が実施すべきことを考えることが必要です。また、外国の方がまちづくりに参画するために、まずは知ってもらうことが大切であり、そのために写真や図を使ったり、多言語のチラシを作成したりするなど、周知にも工夫が必要だと感じます。外国人を雇用している事業者がイベントと一緒に参加するなど、お互いの文化などを自然に理解できる場づくりが大切です。協働のまちづくり推進委員会において、委員から各々の活動現場や生活者としての視点から、さまざまな意見が出されています。今後の発展に向けて参考になる点が含まれていますので、意見を踏まえて施策を実施し、評価していくことが望まれます。

（４）地域づくり協議会等の地域ネットワークの活性化に関して

地域づくり協議会への支援について、地域単位の活動には、地域づくり協議会のほかにも複数の団体や活動があり、それぞれの目的や取組が地域の住民にとって分かり

づらいとの声も聞かれます。この点について、それぞれの団体や活動が把握している地域課題を共有したり、取組を発表しあったり、共有したりできる場づくりが必要です。地域の各団体と情報を共有し、調整・連携を図ることで、地域住民の負担軽減や参加の促進につなげることができると思います。地域づくり協議会事業補助金についても積極的に活用いただき、地域の課題解決に取り組む組織同士の情報共有や連携体制を推進していただきたいと思います。

【第2節 情報の提供・共有】

(1) 協働のまちづくりに関する情報発信の充実に関して

事業者の地域活動の紹介について、積極的に情報を収集し、市のホームページや広報で紹介することが望ましいです。

市民活動団体による講座の実施については、活用件数が少ないと思います。認知度が低いことが原因ではないかと推測されます。今後は、積極的な周知とあわせて、文化的・伝統的な取組をしている団体の講座なども増やせるとよいのではないのでしょうか。

協働のまちづくりに関する情報の発信について、ホームページ、メールマガジン、Facebook（フェイスブック）、Instagram（インスタグラム）、ニュースレター、回覧板など、多様なツールがありますが、発信の内容やその情報を必要とする人にとって適当なツールが異なります。全体的な情報発信には、努力されていると思いますが、情報発信の方法が自己流になっているのではないかと、見直すことも大切だと思います。成功例などを参考にしつつ、情報を受け取る側の対象者を見極め、広報紙やSNSでの情報発信について、さまざまな媒体で戦略的にツールを使い分けるなどの工夫が必要です。とみさとファンクラブや富里スイカロードレース大会などを活用した情報発信についても検討をお願いします。

魅力発信の検討・創設について、協働のまちづくりへの参加の起点となるのは、富里への愛着や関心だと考えます。富里の魅力やイベント情報の発信、生活課題・地域課題の共有を積極的に促進することが求められます。

(2) 情報交換の場づくりに関して

異分野、異世代の交流については、「まちづくり交流会」が大変好評だったと参加者から伺いました。従来は、市民活動団体同士の交流が主でしたが、今後は、「ちい寄附」賛同店舗や地域づくり協議会のほか、ボランティアセンターの登録団体、地域包括支援センター、農協など、多様な分野の団体・機関との交流会も積極的に実施していくことで、より広がりが見られるものと考えます。また、「とみさと市民活動フェスタ」などのイベントも活用し、引き続き、さまざまな分野や世代の市民を巻き込んでの交流の場になるよう期待しています。加えて、「まちづくり交流会」は外国人市民との多文化交流にとっても、有益な取組であると考えます。企画・実施に当たって、外国人市民への呼びかけを工夫するとともに、関連する市民活動団体と連携を取りながら進めてください。

協働のまちづくりに関する情報を発信する情報コーナーの多様化について、富里市

立図書館内に「協働のまちづくり情報コーナー」を設置するとともに、上期と下期に分けて展示の入れ替えを行っていることはよいと思います。とみさと市民活動サポートセンターが発行する「とみさぼニュースレター」に関しても、商工会等と連携し、配架場所を開拓することで当サポートセンターの認知度向上にもつながるのではないのでしょうか。

中間支援組織（市民活動・ボランティア団体をサポートする組織）などとの連携については、中間支援組織同士の意見交換は大切だと思いますので、引き続き、社会福祉協議会（ボランティアセンター）や生涯学習課等と意見交換・情報交換をする場を設定してください。また、他市町村の中間支援組織とも交流を深め、意見交換・情報交換を行い、今後の運営や地域の課題解決のために生かしていただきたいと思います。

【第3節 市の推進体制】

（1）庁内協働推進体制の強化に関して

庁内各課と地域の連携事業は数多くあり、各課の職員の皆様におかれましては、御苦労もあるかと思いますが、尽力されていると感じています。今後も市民起点に立ち、新しい視点での企画提案・実施に期待しています。

地域課題を整理する円卓会議については、各年度で地域課題を一つ決め、関係する課やさまざまな分野の機関の方々にも出席いただき、意見交換する場を作ってはどうか。活発な意見交換を行うためには、ファシリテーションが重要なポイントになります。

（2）市職員の協働意識の向上に関して

職員研修については、外部研修も活用し、職員の協働に関する意識の更なる醸成に努めていただければと思います。

協働によるまちづくりを推進し、一体感があり、更に魅力ある富里市にするためにも、全庁体制で臨んでいただくよう改めてお願いします。